

Face to Face



TICOは保健医療・農村開発などの分野で、アフリカ・アジアで支援活動を行っている国際協力NPO法人です。

地球規模の問題に苦しむ人たちの自立支援を共同作業により実施し、そこで学んだ経験と知識を地域の人々とわかち合い、私たち自身のライフスタイルを振り返るとともに、地域の精神文化の昂揚に寄与することを目的としています。

TICO 季刊ニュースレター

No.22 2010年7月号

カンボジア 救急研修開催/ 行く人来る人

3月に行われた救急研修の様式と、保健医療専門家離任、インターン着任の挨拶をお届けします。

📖 p.2-3

ザンビア 小規模農村開発 ローン

新事業開始、現在の様子、ローン完済のお知らせを一挙公開します。

📖 p.4-5

ザンビア アグロフォレストリー 普及事業

環境保全型農法のひとつ、アグロフォレストリー事業が新たな展開に。

📖 p.4-5

カンボジア 啓蒙活動実施中

火傷をしたら、歯磨き粉？水？応急手当に関する啓蒙活動の様子をご紹介します。

📖 p.6

事務局

TICOサポーターの声、「支援のカタチ」と、前号に同封しましたアンケート結果をご報告します。

📖 p.7

最小不幸について

TICO 代表 吉田 修

菅総理が所信表明演説で「最小不幸社会」をつくると宣言しました。日本社会も格差が広がり、多くの不幸が定着してしまった感があります。アフリカやアジアの不幸も一向に解決されていません。世界には食糧が足りない人が10億人います。我が子に食べさせられない不幸を想像してみてください。ザンビアでは、子供の16%が5歳までに死亡します。一人の子供が治せる病気で死ぬという不幸を想像してみてください。

日本国民が第二次世界大戦の敗戦直後、焼け野原の中から世界に宣言し誓った日本国憲法を今一度思い出してみましょう。

日本国憲法前文の抜粋

われらは、平和を維持し、専制と隷従、圧迫と偏狭を地上から永遠に除去しようと努めている国際社会において、名誉ある地位を占めたいと思う。

われらは、全世界の国民が、ひとしく恐怖と欠乏から免れ、平和のうちに生存する権利を有することを確認する。

日本国民は、国家の名誉にかけて、全力をあげてこの崇高な理想と目的を達成することを誓う。

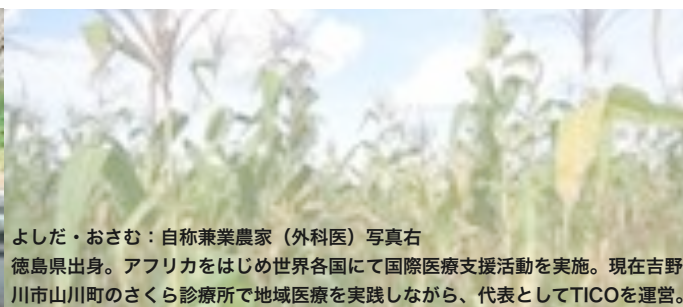
全世界の「最小不幸」を達成するために全力を挙げると誓っているのです。

国連ミレニアム開発目標も、貧困や飢餓の半減、子供の死亡率を1/3にするなど、まさに「最小不幸社会」を目指すものです。

残念ながら2015年の達成はほとんど絶望的な状況です。

世界初の新型エンジンを搭載した宇宙探査機「はやぶさ」が6億kmの宇宙の旅を終えて奇跡の帰還を果たしました。技術的なこともさることながら、絶望的な状況に決してあきらめない人々の強い意志・不屈の精神がそこにはありました。これぞ「日本の、あるいは人類の英知」ではないでしょうか。これほどの英知を結集すれば国連ミレニアム開発目標も達成できないはずはありません。できないのは人類の意思の問題のように思われます。

TICOは世界の様々な不幸を少しでも減らそうと努力してきました。これからも応援をお願いします。「最小不幸社会」のその先に「最大幸福社会」の出発点があるのかもしれない。



よしだ・おさむ：自称兼業農家（外科医）写真右
徳島県出身。アフリカをはじめ世界各国にて国際医療支援活動を実施。現在吉野川市山川町のさくら診療所で地域医療を実践しながら、代表としてTICOを運営。

カンボジアにて 救急研修開催

古家聖子
(保健医療専門家)



カンボジア 行く人 来る人

古家聖子

(保健医療専門家)

TICOにて2009年8月からカンボジア事業に関わらせてもらい、8ヶ月をカンボジアで過ごしました。2010年3月を持ちまして、いったんTICOを離れることにしました。私はもともと日本でも経験の浅い医療者ですが、カンボジアでも医療者としての未熟さを感じる日々でした。経験・知識不足のため、カンボジア人医療者の日々の素朴な疑問にも答えてあげることが難しく、また自ら人を集めて研修をすることも難しい現実がありました。カンボジアの医療者は非常に真面目で、知識・技術を得ることに対してとても貪欲です。日本では当たり前にある機器、教科書が彼らには簡単に手に入りません。医療者は日々疑問の連続ですが、私たちは悩んだとき、それを聞くことのできる先輩医療者がいます。しかし、彼らは歴史の関係もあり、それを教えてくれる先輩も少ないのです。ですから、新しいことを学べる機会をつくれば、非常に積極的に吸収しようと努力してくれます。比べて日本の医療者として、できれば勉強したくない、休んで自分の好きなことがしたいと甘い覚悟で医療に関わってしまっていた自分がとても恥ずかしくなりました。カンボジアに関わり続けたいという気持ちは決して消えることはありませんが、カンボジアに対し、自分が何をできるかを考えたとき、やはりもう少し医療者として経験を積んだほうがいいと思い、今回医療の現場に戻ることを決めました。

カンボジアで一番心に残ったのは、カンボジア人事務所スタッフそしてカンボジア人医療者のことです。カンボジア人は手先が器用で気が長く（あの精巧なアンコールワットをつくったことからよくわかります）、人に対しては裏表があるとはいいますがと

ても人なつこい人たちです。日本人によく似ていると思います。私は事業でかかわらせてもらったカンボジアの人たちが大好きでした。もちろん日本人のような几帳面な仕事や人を思いやる倫理観の多くは望めなくても、彼らの生き様は私にたくさんのことを刻んでくれました。「生きるために働く」その仕組みが日本よりずっとはっきり見え、「生きる」ということに必要なことが何なのか、それが体感してわかった気がします。日本は情報過多・物資過多で人間関係が希薄、生きるために何が重要なかがわからなくなります。「家族」「食べること」「働くこと」当たり前ですが大切なことが改めて思い出せ、必要のないものは選ばなくていいのだということがわかり、私はとても救われました。彼らは経済的に裕福でなくても、自ら工夫して生活・仕事をしなければならぬからこそ、彼らの方がよく知っていること、彼らから教わることはたくさんありました。カンボジアの私に関わってくださった人々に感謝するとともに、そういう経験をさせていただける機会を与えてくださったTICOに大変感謝しています。またいつか自分がカンボジアに関わることができればと願っています。



TICOカンボジア事務所のスタッフたち

TICOカンボジアではプノンペン市西部地区のポチェントン病院および5診療所の医療者の方々を中心に、救急の研修を行っています。カンボジアでは医療が発展途上であり、医療者が新たな医療技術を学びたくても、教えてもらえる人や機会に恵まれないということが多くあります。救急という分野に関しては特にそうでした。そんな中始まったのが、この研修シリーズです。講師である渡部医師は日々の診療の合間をぬい、ハードスケジュールの中、3ヶ月に1回はカンボジアに来て研修を実施しています。今回は3月24日からの日程で気道管理の研修を行いました。気道管理とは息の上手くできない人を助ける方法で、救急の現場では必ず必要とされる技術です。今回、新たに気管内挿管という技術の練習を行いました（気管内挿管はその名のとおり、チューブを気管の中に入れる技術で、人工呼吸器を使用するときや痰や血で気管が詰まって息が吸えないときなどに行う技術です）。

新しい気道管理人形にわくカンボジア医療者たち (写真左)

気管内挿管は日本では医師にしか認められていない技術で、難しいテクニックを必要とします。カンボジアの医師の中にも教えてほしいという人はたくさんおり、新しい気道管理人形を今回導入した（普通の人形には壊れてしまうためチューブの挿入ができません）のもあり、新しいものの好きのカンボジアの人たちは大騒ぎでした。人形が一体しかなかったため、人だかりの中先を競ってみな気管内挿管に挑戦しています。

症例検討会で女性が活躍 (写真下)

ポチェントン病院、診療所、他の病院の医療者の人々を集め、どんな患者さんを経験したのかをみなで検討しあう会を開いています。今回3回目の開催で、女性医療者に患者さんの症例の発表をしてもらいました。ポチェントン病院の女性の医療者はみな優秀な人ばかり。まだまだ女性の地位の低いカンボジアで、ぜひぜひ活躍して



田中準一 (インターン)



皆様はじめまして。この度JICAを通じインターンとして4月からカンボジア事務所でお世話になっております長崎大学国際健康開発研究科（公衆衛生学修士課程）の田中準一と申します。

私が「プノンペン市西部地区低所得者層の人々の命を守るセーフティネット強化事業」に関心を持ったきっかけは、近年のアジア諸国での交通事故による死亡者数の増加に問題点を見出したことでした。HIV/AIDS、結核、マラリアなどが注目される国際保健の分野ですが、低・中所得国における交通事故による外傷の増加やそれに伴う死亡率の上昇も看過できないほど大きな公衆衛生学的問題となっております。また、救急やICU（集中治療室）で看護師として働いてきた経験を少しでも活かせればと考えたことがこのプロジェクトに関わりたと思ったきっかけの一つです。

10年前にやっとモニボン通り（市内の大通り）に信号ができた…という話を聞きましたが、カンボジアでも開発と都市化の波に押され、自動車やバイクによる事故が増加し、今や死亡原因の第2位となっております。また、ここプノンペンでは、バイク・自動車・トゥクトゥク（バイク後ろに客車をつけた料金交渉制の乗り物）の逆走、バイク3-4人乗り、ヘルメットなしでの運転、信号無視が法律で認められているのかと勘違いしてしまうほどに日常化しています。私自身、最近はこのらの行為を見ても驚かなくなり、慣れとは本当に恐ろしいものだと感じております。これらは、運転に関するモラルの欠如、交通に関する法整備の不備、公務員所得が低いゆえに根付かない違反制度（取り締まる警察官からの賄賂の要求など）、車両の増加に対応できていないインフラ整備の遅れなど、『交通の増加とそれに伴って発展しなければならない社会整備の間に大きなギャップがあること』や、病院で

適切な治療が利用できないこと、救急医療（搬送）システム・社会保障制度の不備、救急車への信頼感の欠如など、『交通の増加に伴って新たに生じた健康リスクに対応する基盤が十分でないこと』などにより生じているのだと思います。

法律の整備、政府のキャパシティ・ビルディング（能力構築）、インフラ支援など協力の形には様々なものがあるとは思いますが、医療の視点から状況を改善し、貧困層でも利用できるセーフティネット(救急医療システム)の構築がこのプロジェクトの役割です。“木を見て森をみず”という言葉がありますが、救急医療システムという森とその構成要素である木（個々の活動）をしっかり見据えることを忘れずこのプロジェクトに関わっていきたいと思います。

すでにプロジェクトは終盤に差し掛かっており、今後の主な活動は救急ガイドラインの作成及び配布と住民の啓蒙活動です。現在は住民の啓蒙活動が中心となっており、専門である医療関係の活動（救急隊や関連病院における活動）に関わることはできておりませんが、時間を見つけて積極的に関わっていければと考えております。

たくさんの支えがあって、私はこうしてカンボジアで実務の勉強をさせて頂くことができております。そのことへの感謝の気持ちを忘れず、どんなに小さなことでもいいのでカンボジアの人々のために役立てるよう努力していきたいと考えております。よろしくお願い致します。



ザンビア／チペンビ小規模農村開発ローン

黒田晶子(業務調整員)

New!

「カリヤングレ」グループ、新事業で 乾燥魚の販売 開始！.....

Face to Face 21号でローン完済をお知らせしたばかりのカパラモト村の「カリヤングレ」グループと新たにローンを締結する運びになりました。

前回は地鶏の飼育、販売を行なった彼らですが、メンバーの更なる生活向上のために今回は乾燥魚の販売事業に乗り出します。メンバーは水温が高く魚の値段が低い夏の間に、村から40キロ程離れた漁場で乾燥魚を購入し、村で1年かけて売り切る予定です。

リーダーのカパラモト氏は「村では鶏肉は貴重品。特別なお祝い事が無ければ口にすることはできません。鶏肉に代わる安価なタンパク源として皆が欲しがっている乾燥魚も村では安く手に入れるのが難しいのです。乾燥魚を販売して村の栄養状況の向上に貢献し、メンバーの生活状況も向上できればこんなに嬉しいことはありません。」と語ります。



契約書にサインし、ローン締結！

Now

「マサカサカ」グループの ヤギの飼育・販売 その後

ブテコ女性の会と同時期に順調にローンを返済中のマサカサカグループですが、こちらのグループもヤギの飼育事業を運営中です。途中、親ヤギが出産後に死亡してしまったり、ヤギに眼病が見られるトラブルもありましたが、コーディネーターのンジョブさんからのアドバイスを受けて現在ヤギ達は順調に成長しています。こちらのグループはヤギが販売できるようになるまでは炭を焼いて販売した収入をローンの返済に充てています。ヤギの世話の傍らメンバーは協力して薪を集め、土釜で何日もかけて炭を焼き上げて販売しています。この調子でローン完済まで気を抜く事無く頑張っていると思います。「ローンの返済もあるしまだまだ利益が出るまでは時間がかかると思うけど、事業が成功したら使い道はメンバー全員で話し合っで決めたいわ。」とメンバーが語るとおり、チームワーク抜群のマサカサカです。



ザンビア／チペンビ アグロフォレストリー普及事業が新たなステージへ

藤村健司(業務調整員)



今後の事業展開について話し合うメンバーたち

ザンビアでは、一般にメイズ（とうもろこし）の単一栽培やハイブリッド種子と化学肥料の使用を組み合わせた近代農法が主流となったことで、年々土壌生産力の低下や、地下水などの汚染といった問題が多く指摘されるようになりました。このような状況から、TICOザンビア事務所は2003年から中央州チボンボ郡チペンビにおいて環境保全型農法のひとつであるアグロフォレストリー（*）の導入事業を展開してきました。そしてこの2010年度には、独立行政法人環境再生保全機構の地球環境基金助成金により、事業拡充を図ることが可能となりました。

ただ、これまでのアグロフォレストリー事業では、事業に賛同する農家が主に大豆やひまわりといった緑肥植物を活用した輪作の手法を、彼ら自身の畑で実践して来ましたが、農家の方の参加意

Now

「ブテコ女性の会」グループのヤギの飼育・販売 その後.....



前号でヤギの飼育ワークショップの様をお伝えしたブテコ女性の会のグループですが、現在は19頭のヤギを購入し、順調に飼育を進めています。グループのメンバーは一週間に3人ずつの交代制でヤギの飼育に当たっています。メンバーは朝、目を覚ましたヤギの健康状態をチェックし、放牧のために小屋の外に出た後は、小屋の掃除や水汲みなど様々な仕事をこなします。ヤギに寄生虫を防ぐためのスプレーをかけたり、病気のケアなど初めての

経験で慣れない事もあるようですがンジョブさんからの指示を仰ぎ、確実に事業を運営している様子は頼もしい限りです。

さて、ヤギが成長して販売できるようになるまでは、ブテコ女性の会は前回のローンを利用して事業を開始したタックショップ（日用品店）の収益から今回のローンの返済金を捻出しています。4月から始まった返済も滞る事無く順調です。開店当時と比べるとお店の品数は倍以上に増え、収益は右肩上がり、メンバーの家計もローン開始以前より格段に潤っています。増えた収入を何に使っているのかメンバーに聞いたところ、「もちろんビジネス投資よ！お店で売れるように古着やお皿を個人で仕入れたり、自分で編んでお店で販売する小物を作るための毛糸をかうの！」となんとお母さんたち。旦那さんたちも家計に大いに貢献している彼女たちを誇りに感じているようです。「タックショップを始めるまでは医療費や子どもの教育費を借りるために村を走り回らなければならないこともあったのよ。でも今ではお店の収入から緊急時にメンバーが借りられるお金を作ったからそんな心配も無くなったわ。」とメンバーは語ります。

Fin!

「ヘブラ」グループ 養鶏 ローン完済！.....

養鶏事業で大成功を収めているヘブラグループが今年3月で無事ローンを完済しました！事業開始時には雛が新型の病気ですべて死んでしまうトラブルに見舞われてしまった彼らですが、メンバーが農業大学の講師や卒業生ということもあり、その



後は極めて順調に事業を運営しています。鶏の販売の度に収益率は向上しており、事業開始当時30%だった粗利は今では50%にまで上昇しました。鶏の販売先も地域住民だけでなく、全寮制の学校の給食室やチペンビで活動するNGOなどにも広がりました。今後は小型の冷蔵庫を購入し、食肉処理をしてより多くの出荷ができるように事業を拡大するのが目標です。



欲や理解度にやはり温度差があることや、参加農家の進捗状況のチェックやサポートをお願いしたモニター農家さん自身のトレーニングも時間的に十分ではありませんでした。そのため、アグロフォレストリーの啓発・知識普及に関して、農家さん同士の横への広がりに限界があったことも否めません。

そこでアグロフォレストリー分野の目玉事業として、地元のチペンビ農業大学の協力の下、2010年度は農薬や化学肥料に頼らない有機農法をベースとした環境保全型農法を活用し、デモンストレーション農場（デモ農場）を進めることになりました。デモ農場建設の狙いは、「地域農民に環境保全型農法の効果を今まで以上に身近に感じて、かつ納得してもらうこと」「デモ農場での作業参加や十分なトレーニングを経た中核農民が、普及の先駆けとなるエリア指導員（仮称）として養成されること」です。最終的にはエリア指導員の育成によって、対象地区内の9ヶ村に、啓発・普及のためのネットワークを張り巡らし、地域農家同士が教えあい、協力し合う体制を作ることを目指しています。

また、本事業では特に主要な穀物生産物となるメイズに関して、

在来種の使用を推奨します。現在、当地においても使用が主流となっているハイブリッド種は子孫を残さない種であることから、農業の持続可能性の確保を難しくしている他、小規模農民にとっては種子の購入費用が経済的負担になっていることも見逃せません。また、化学肥料の使用を前提としているため、化学肥料の多用による土壌生産性の低下を招く一因ともなっています。デモ農場は、特にプロジェクト期間中はもちろん、期間終了後も在来種メイズの生産・啓発拠点となることを目指します。

デモ農場が将来、ザンビアにおける環境保全型農法普及の一大拠点となることを願いつつ、本プロジェクトを進めていきたいと思っています。

*土壌肥沃効果を持つ樹木を農地の周囲に植えたり、樹木の落ち葉を堆肥に使うなど、農地と林地の組み合わせにより、土地の生産性を上げる農業手法。広義には窒素固定作用のあるマメ科植物との輪作、混植や畜糞堆肥・水産養殖などを組み込んだ手法も含む。

カンボジア／応急手当に関する啓蒙活動を実施中！

～火傷をしたら「歯磨き粉」から
「キレイな水」へ向けて～

大坪加奈子(事務所長)

クラン村での啓蒙ワークショップの様子。
ボランティアさんたちの冗談にみんな大笑い。



3月よりプノンペン市西部地区の2地区（クモイ地区、サムロンクロン地区）、合計12ケ村の住民を対象とした啓蒙活動を実施しています。これまで、約1年間にわたって上述の各地区内で住民の応急手当をサポートするボランティアさんの育成を行い、

- ①応急手当に関する研修・フォローアップ
- ②コミュニティで生じる病気や事故等に対し、ボランティアさんがどのような処置・対応を行ったのか情報共有・検証を行う

という活動を実施してきました。そして、それらの活動を土台として、各村のボランティアさんが主体となり、簡単な応急手当を住民に普及させることを目的として啓蒙活動を実施しています。

「村の中で生じる病気や事故はどんなものが多いのか」、「救急車を呼ばない理由は何なのか」、「なぜ診療所へ行かないのか」といった点についてボランティアさんと情報を共有する中で、特に必要だと思われた

- ①応急手当とは何か
- ②救急車の役割・番号・要請方法
- ③簡単な応急手当（切り傷、出血、熱傷、感電、溺水、動物咬傷、窒息、交通事故対応）
- ④診療所・ボランティアの役割

という点に重きを置いて啓蒙活動を行っています。

例えば、救急車とは「死体を運ぶ車」であるとか、「高額の費用を請求する私立病院の救急車＝怖い」というイメージが住民の間に根強くありました。また、「なぜ診療所に行かないの？」という質問に対しても「知っているスタッフがいないから行くのが怖いんだよ。診てもらえるのか心配。」という理

由が住民から返ってきたりします。そして、先入観は中々拭い去ることができず、いくらボランティアさんが「そんなことはないよ。」と説明しても信じてもらえないといった現状がありました。そのため、救急隊や診療所スタッフに啓蒙活動のワークショップに参加してもらって「顔の見える関係づくり」も併せて行うことで、＜恐怖感＞ではなく＜信頼感＞や＜安心感＞をもってもらえるよう工夫しています。

これまで、地域内でさまざまな民間療法や俗信により応急手当が行われていました。「火傷をしたら歯磨き粉を塗る」、「出血した際にタバコの葉で傷口をふさぐ」、「溺れた人の身体を温めるために火であぶる」等がその一例です。特に、「火傷をしたら歯磨き粉を塗る」という方法は地域・老若男女問わず幅広く行われているようです。結果として、処置が誤っていたために、また診療所・病院に行かなかったために症状が悪化し、さらに余計な治療費がかかって家計を圧迫してしまうということも生じています。そのため、一般の住民にボランティアさんや診療所スタッフ、救急隊と協力して啓蒙活動を行い、応急手当に関する知識を身につけてもらうことは非常に大切だと考えています。

これまで習慣的に行われてきた民間療法からすぐに住民の行動が変化するとは思いませんし、しばらくは民間療法や俗信とともに新たな知識が共存していくのだと思います。しかし、これまでの知識に加えて（西洋医学的に）正しい知識を身につけてもらうことで、住民の選択肢の一つでも増やしてもらいたいと思っています。「そう言えば、火傷には歯磨き粉じゃなくて水がいいと言っていたな。ちょっと試してみよう。」などと思い出してもらって、時間はかかっても徐々に行動が変化する方向に進んでももらえればと願っています。



応急手当ボランティアのおじいさんたち。
写真左の方は村長さんがボランティアを兼任されています。2名ともお孫さんを引き連れてワークショップを実施してくれました。いつも笑顔のおじいさんたちとお話するとほのぼのします。

○×クイズを実施して、参加者たちが学んだことを覚えているか確認します。みんなちゃんと正解に手を挙げてくれています！



支援のカタチ

～木村秀樹さんの場合～

6月12、13日に行なわれたアフリカン・フェスタ2010にボランティア・スタッフとしてTICOの出展ブースをお手伝いをさせていただきました木村秀樹と申します。TICOは活動の拠点が徳島県でありますゆえ、東京在住の私はお役に立つ機会をなかなか見付けられず、会員名簿に名を連ねるだけの日々を送りながら、少々肩身が狭い思いをいたしておりました。そこへ、お手伝いスタッフ「大募集」のご案内を事務局から頂き、これは！とばかりに勇んで参戦いたしました次第です。2日間お手伝いをさせていただきましたが、勉強となる機会と刺激を大いに受けました。休憩時間を利用して他のブースや各種イベントを見て回りましたが、アフリカの厳しい現状を改めて痛感することとなりました。しかしながら、フェア会場の雰囲気は、アフリカの方々が持つ明るい人柄からでしょうか、笑顔が溢れるとても楽しい場でありました。

私はTICOの会員になってから約2年になります。きっかけは勤務



手前右が木村さん

先の(株)メディカル・プリンシプル社が発行している月刊誌「ドクターズマガジン」で代表の吉田先生を取材させて頂いたのがご縁の始まりです。そのタイミングで偶然にも、私の友人より「アフリカ支援に熱心な原丈人（国連IIMSAM特命全権大使）さんが、サポー

トしてくれる医師を探している。」との相談を受け、会社を通じて吉田先生にそのお話しを取り次ぎさせて頂いた際、吉田先生、富士事務局長の直実な思いと熱心なご活動を目のあたりにし、強く感銘を受けました。私も何か出来ることがないか考えました末、個人賛助会員として入会いたしました。アフリカが抱える諸問題は知識としては持っていても、それにどう向き合えば良いのか分からなかった私のような人間がTICO会員の末席を汚すことになるのですから、人様との出会いや縁とは分からないものです。吉田先生を始めするTICOの皆さんとの出会い、今回のフェアを共に楽しくお手伝いした、未来ある3人の学生さん（全員現役の大学生です！参考までに私は42歳のオジサンです）との出会いを大切にしたいと思います。それらが少しずつでも拡がってアフリカ支援に役に立つなら、こんな素晴らしいことはありません。お金も大事ですが、やはり最後は”人”ですよね。

私は家庭も仕事もあり、TICOの職員の方々のように、アフリカへ直接支援に出掛けることは容易ではありません。また、現地で活かせる能力もありません。しかしながら、私の微力の及ぶ範囲で、そして出来ればそこから少しでも背伸びをして、TICOを通じてアフリカ、ザンビア等で困っている人々の助けになれば良いと思い、これからも会員であり続けたいと思っています。再び東京近郊でイベントなどお仕事がある際には、万難を排して馳せ参じたいと思っています。

TICOアンケート集計結果発表！

前回のFace to Faceに同封させていただきました会員アンケートの結果をご報告致します。TICO会員数の約4分の1にあたる55人の方からご回答を頂きました！

回答者の属性

男女比は6：5で、平均年齢は42.2歳でした。

20代女性が9人と最も多く、次いで40代男性が7人、そして20代男性、40代女性、60代男性が5人でした。

TICOからの情報発信についての満足度

ア) 会報「Face to Face」

55人中54人の方が、満足（43.6%）または、概ね満足（54.5%）と回答されました。

イ) ホームページおよびブログ

55人中34人の方が、満足（16.4%）または、概ね満足（45.5%）と回答されました。残り21人の方は「見てない」という

回答でした。

TICOを支援している理由（抜粋）

*税金からODA経由では、実感が持てない。TICOを通せば具体的である。（60代男性）

*ザンビアの人々への支援がとても良いと思う。農村ローン活動や、救急車支援などはとても大切なことと思います。ザンビアの人々の自立に向けた取り組みを続けてください。（50代男性）

*子育てに追われる日々でどうしても自分がつながっている世界が小さくなりがち。今の状況では、自分が直接「何か」をする

ことはできないがTICOの活動を通じて今の自分でも何かできればと思うから。（40代女性）

*持続可能な循環型社会の実現を期待しているから。本当は自分自身が努力して生活を見直す必要があるんですが。。。TICOを会員として支援することしか地球のためにできていないので、これだけは続けたいと考えているからです。（30代女性）

*TICOの活動、中でもWAHEプロジェクトへの共感。海外だけでなく、国内（県内）においてもアグレッシブに活動されており、様々な分野について勉強になる。（今後の生き方への投資として）。TICOスタッフおよび関係者の方々の人間味の良さ。（20代男性）

「TICOと会員の皆様とのコミュニケーションのあり方を検証し、今後の改善へとつなげる」として実施したアンケートですが、思ったよりも満足していただいている方が多く、ひとまず安心しました。また、TICOを支援していただいている理由やTICOへのメッセージにも、多くの方からご回答・ご提案を頂き、TICOを支えてくださっている方のお顔が少し見えたようで、その一つ一つに励まされました。

年齢に関わらず、会報のみで情報を得ている方が4割近くいらっしゃるということで、今後も紙面を通じた分かりやすい情報発信に努めて行きたいと思っています。ホームページ＆ブログでは、最新情報や会報に載せきれない情報が随時掲載されますので、まだご覧になったことがない方も是非この機会にご覧下さい！

領収書の発行について

現在、希望制になっている領収書発行についてですが、このままでよいと回答された方が76.4%いらっしゃいました。したがって希望制を維持させていただきたいと存じます。領収書の発行が必要な方は、大変お手数ではありますが、事務局へご連絡いただきますようお願い申し上げます。

鳴門市賀川豊彦記念館主催 ～チャリティーウォーク～

4月26日、鳴門市賀川豊彦記念館主催でチャリティーウォーキング”子どもたちのために歩こう！～私たちの一食分を世界の子どもたちへ～”が開催されました。

社会的に弱い立場にある人々のために生涯を捧げた賀川豊彦氏の業績を記念して建てられた同記念館では、賀川氏のスラム街での救済活動開始100周年を記念して、昨年から年1回子どもたちの権利のためのチャリティーウォークを開催しています。今年は地元徳島を拠点に国際協力活動を行っているNGOへ支援を届ける、とのことで集まった参加費を全額TICOに寄付して下さいました。また1ヶ月間に渡り、パネルやザンビアの民芸品等を展示くださり、チャリティーウォークを盛り上げて下さいました。

鳴門市賀川豊彦記念館はじめ、チャリティーウォークにご参加いただき、ご支援・ご協力いただいたみなさま、本当にありがとうございました。



展示物に目を通す参加者の方々



ウォーキングにいざ出発！

ご支援ありがとうございました

TICOの国際協力活動は、皆様からの寄付金や会費によって支えられています。温かいご支援をお待ちしております。

寄付をいただいた方

田淵規子、横浜市立鶴見中学校、田淵千夏、TICOホートクラフ、森山小学校、(株)今西製作所、岡田、峰尾武、川越敏良、大西賀奈子、秋月良子、矢田安枝、桑原サカキ、唐住洲子、中村美恵子、藤野紀子、松浦サダ子、安本カチエ、吉野川市国際交流協会、石田亘良、福井章一、藤村京子、江橋裕人、藤村知子、NPO法人賀川豊彦記念鳴門友愛会、藤井節子、浮田尚子、吉田修、匿名3名

住洲子、庄司孝志、中村美恵子、西尾幸郎、萩森健治、畑和子、原田恵子、藤田文彦、山田絵美、井内一志、岡田、新居智次・和世、真子多恵、大瀧知津枝、町田美佳、田所幸枝、尾崎富美子、井形和枝、株式会社フジタプランニング、特定非営利活動法人AMD A 菅波茂、大島、大脇甲哉、田淵元樹、濱田直文、宮本健太、山元博子、古賀明子、佐治朝子、天満雄一、古川彩香、中野貴志、原田栄枝、吉田純、庄田多江、瀬戸口千佳、匿名2名

●2010年3月16日～2010年6月15日分

●順不同、敬称略

新たに入会された方

石川富代、藤村雄伍、福田開人、匿名1名

会員を更新された方

天田大輔、庄野真代、垣原宏治、加藤かえで、唐

TICOへの入会方法

会員となって資金面からもTICOの活動をサポートして下さる方を募集しています。会員の方には、TICOニュースレター“Face to Face”を毎月お送りいたします。

年会費

賛助会員	個人	¥12,000
	学生	¥6,000
	団体	¥15,000

正会員 ¥12,000

※通常は賛助会員でのご入会をお願いしています。総会での議決権を持つ正会員を希望される方は事前にご連絡下さい。

入会ご希望の方は、年会費を郵便振替にてお支払い下さい。郵便局備え付けの振替用紙で、次の口座へお願いいたします。

事務局長 福士庸二のつぶやき

22年前（平成元年）アフリカ・マラウイ共和国でのこと、ンガブという南部の小さな町で働く機会があった。仕事の帰りにときどき職場のサッカーチームの練習に参加した。ボールがなくて練習ができず、田舎の弱小チームだった彼らだが、ボールを手に入れるとそれは熱心に練習をし、見る見るうちに強くなり、全国2部リーグ（日本でいえばJ2）に昇格、2部でも強豪チームとして全国に知られるまでに成長できた。赴任前、先に赴任していた日本人の



当時の仕事仲間たちと

先輩からサッカーボールを一個持ってきてくれと頼まれたのだ。たかがボールだが、測り知れない可能性がそこにある。

TICOが行うプロジェクトの中でも、サッカーボールに代わる投入を期待したい。

TICOへのご寄付の方法

郵便振替 — 01640-6-37649（加入者名）TICO

銀行振込 — 四国銀行 山川支店（店番号344）

普通 0199692

特定非営利活動法人TICO

代表理事 吉田修

カナ入力の場合は、トクヒ）テイコ

募金箱 — さくら診療所（徳島県吉野川市）に

常設しています。

インターネット — TICOウェブサイトのバナー広告をクリックして、そこからお買い物していただくと、代金の一部が寄付されます。詳しくはホームページをご覧ください。

口座番号 01640-6-37649

加入者名 TICO

ご住所・ご氏名・お電話番号の他に、Eメールアドレスもお持ちでしたら通信欄にお書き添え下さい。

なお、ゆうちょ銀行自動引き落とし、クレジットカード払いも可能です。詳しくはホームページをご覧ください。

TICOニュースレター Face to Face 第22号

2010年7月発行 発行人：吉田 修

編集：庄田多江

特定非営利活動法人 TICO 事務局

〒779-3403 徳島県吉野川市山川町前川120-4

電話／ファクス：0883-42-2271

メール：info@tico.or.jp / ウェブサイト：www.tico.or.jp